

平成27年度教育事業

「東北地区学校教育に活かす体験学習指導者講習会」

事業報告書

1 趣旨

国立花山青少年自然の家にあるエレメントを利用した体験学習の手法や考え方を学び、集団の中での望ましい人間関係づくりや個人の成長を促すための指導技術を身につける。

2 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

3 協力

プロジェクトアドベンチャージャパン（株）
みやぎアドベンチャープログラム（MAP）研究会

4 後援

青森県教育委員会、岩手県教育委員会、宮城県教育委員会
秋田県教育委員会、山形県教育委員会、福島県教育委員会

5 期日

平成27年11月7日（土）～11月8日（日） [1泊2日]

6 参加対象と人数

学校教育関係者、青少年教育施設関係者、教育委員会、市役所職員、学生、
NPO法人関係職員、その他興味をお持ちの方 25名

7 参加状況

	宮城県		山形県		福島県		青森県		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
小学校教育関係者	3	2	1	1	0	0	0	0	9
中学校教育関係者	1	1	0	0	0	0	0	1	3
青少年教育施設職員	0	2	0	0	1	0	0	0	3
大学職員	2	0	0	0	0	0	0	0	2
市役所職員	1	0	0	0	0	0	0	0	1
大学生	6	6	0	0	0	0	0	0	12
一般社会人	3	0	1	0	0	0	0	0	4
その他	2	0	0	0	0	0	0	0	2
計	18	11	3	1	1	0	0	1	36
	29		4		2		1		

定員25名 参加申込総数36名 キャンセル2名 参加実数34名

8 日程

	11月7日(土)	11月8日(日)
午前	◇受付 9:30(事務室側玄関ホール) ◇開講式 10:00(プレイホール) ◇演習 10:20~12:00(プレイホール) 「環境学習の形成」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 三塚 隆洋 氏 土生 直樹 氏	◇朝のつどい ◇演習 9:00~12:00(大研修室) 「グループでの個人の成長を支援する」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 三塚 隆洋 氏 土生 直樹 氏
午後	◇演習 13:00~17:30 (プレイホール・大研修室) 「グループでの課題解決」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 三塚 隆洋 氏 土生 直樹 氏	◇演習 13:00~15:00(大研修室) 「学校における体験学習の展開」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 三塚 隆洋 氏 土生 直樹 氏 ◇まとめ 15:00~15:15(大研修室) ◇閉講式 15:15~15:25(大研修室)
夜	◇講義・演習 18:30~20:00(大研修室) 「体験学習についての理論と安全管理」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 安達 章美 氏 三塚 隆洋 氏 土生 直樹 氏	

9 実施状況

【11月7日(土)】

◇演習「環境学習の形成」

今年度は、昨年度までと異なり年1回の開催となった。

参加者は教員が1/3を占めたものの、体験学習法を活かすことを目的とした青少年教育施設の関係者や大学職員、市役所職員、大学生、また一般企業からの参加者もあった。幅広い青少年教育関係者が興味をもっていることが感じられた。

研修会の冒頭、本事業について全体イメージをもってもらうために、PAJの高野氏から研修の概要を説明していただいた。本講習の2日間のゴールは、「指導者として、花山自然の家のエレメントを使って体験学習を企画、運営する」であることを確認した。その後、アイスブレイクとして室内でできるアクティビティに取り組んだ。これから始まる研修への期待感を高めながら参加者の不安を徐々に取り除き、お互いにかかわり合いながら学びを築き上げていくという心構えをつくることができた。その後、活動場所を、花山自然の家の敷地内にある「冒険の森」に移動し、ローエレメントを使いながら、参加者の立場で体験学習の効果を体感した。

【主なアクティビティリスト】

- ウブンツカード
- ネームトス
- 握手つなぎ
一方向→両方向
※時間をどれだけ短縮できるか
- エネルギーチェック
- シュウマイじゃんけん
- ミラーストレッチ
- ビート 他



【体験学習サイクルについて説明する高野氏】 【ウブンツカードを使ったアイスブレイク】

◇演習「グループでの課題解決」

午前～午後の演習では、体験学習サイクルを実際に体感してもらおうことをねらいとして演習に取り組んだ。体験活動を通して参加者の中に起こっていることが体験学習のサイクルであることを実感してもらおうことをねらいとした。いくつかのアクティビティを通して、「体験の中で何が起こっていたのか」「その体験を通してどう考えたか」「体験を活かしてどうするか」という体験学習サイクルを体感できた。

アクティビティは個人から集団へ、段階的に負荷の高いものに移行していった。その中で参加者同士が課題解決に向かってお互いの考えを出し合いながら解決策を探ることで、心の中に連帯感が生まれていった。演習の最後に心の中で感じたものを共有する中で、参加者同士の心のつながりの心地よさや学びへの意欲を示すものがたくさんあった。

【主なアクティビティリスト】

- How you ever
- Copy cat
- バナナおに
- がっちゃんおに
- TP シャッフル
- しまめぐり
- ニトロクロッシング
- てつなぎトラバース
- モホークフォーク
- ジャイアントシーソー 他



【アクティビティ体験 左…TP シャッフル 中央…島めぐり 右…浮き台わたり】

◇講義「体験学習についての理論と安全管理」

初日の活動のまとめとして、本講習を通して大事にしたいことやチームの目標をビーイングにまとめた。また午前、午後に使用したエレメントについての指導法や注意点について、PAJの高野氏から提供いただいたマニュアルやガイドブックを使いながら、実際に利用者に説明することを念頭においた、プレゼンテーションの方法を体験した。1日目の研修を通して、スパイラル構造で学びを積み重ねていくことが体験学習サイクルであることを学ぶとともに、利用者により安全にエレメントを使っていただくための情報提供ができるまで、学びを深めることができた。



【ビーイングでチーム目標確認】 【エレメントを説明する準備】 【チームごとの発表場面】

【11月8日(日)】

◇演習「グループでの個人の成長を支援する」

2日目の午前は、花山自然の家のプレーホールを利用して、室内でできるローエレメントを利用した活動を展開した。課題の難易度も徐々に上がり、昨日までのチームの凝集性を意識した取り組みへとアクティビティを段階的に変化させた。

様々な課題にも、チームごと意見を出し合いながら、課題を解決できることの素晴らしさ、メンバーと協力することの大切さを、体験を通して学ぶことができていた。

【主なアクティビティリスト】

- ジャイアントシーソー
- 川わたり
- トラストシークエンス
- アイランズ 他



【ジャイアントシート(室内版)】 【川わたり(室内版)】 【ビーイングの確認場面】

◇講義・演習「学校における体験学習の展開」

本講習会最後の講義・演習では、実際に指導者の立場で集団を動かす上での悩みや心配、疑問点を、KJ法を使いながら出し合い、それに対して講師や他の参加者が自分の経験を活かしながら回答する演習を行った。

参加者それぞれが2日間の気づきや疑問をアウトプットすることで、自分の学びと他の参加者の学びを共有することができた。

【アクティビティリスト】

- 2日間の活動を通して、疑問や悩みをジャンルごとに出す。
- それに対し、講師や参加者が、それぞれの立場から回答
- 2日間のまとめ 他



【疑問や悩みをジャンル毎に出し合い回答する】 【PAJ 高野氏が2日間活動をまとめる】

10 成果と課題

(1) アンケートの結果

①参加者の満足度（アンケート回収率 100.0%）

単位：%

	設 問 事 項	満 足	やや満足	やや不満	不 満
①	事業全体をとおしてはどうでしたか。	70.6	29.4	0.0	0.0
②	事業の活動はどうでしたか。	76.4	23.6	0.0	0.0
③	事業の進め方はどうでしたか。	76.4	23.6	0.0	0.0
④	花山自然の家の職員はどうでしたか。	73.5	26.5	0.0	0.0

参加者34名に対して、事業後に行ったアンケート調査の集計結果は、表のとおりであった。4つの項目全てにおいて、「満足」「やや満足」の参加者が高い割合であり、この事業は総合的にみて好評であったといえる。講義・演習が、バランスよく配置されていたことが要因であると考えられる。

(2) 事業に参加する前のこと

①事業への参加経験

・今回初めて…22名 ・これまでに経験あり…12名

②事業を知った手段

・チラシを見て…6名 ・人から紹介されて…23名 ・ダイレクトメールで…3名
・インターネットで…6名 ・新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど…1名
・その他…1名（前回の講習会での告知で）

③事業に参加した理由

・内容に興味があった…19名・友人・自己啓発のため…15名・知人に誘われて…6名
・上司にすすめられて…10名・講師がよいので…6名 ・交友を広げるため…7名
・その他…1名（職場で活かすため）

【成果】

- ・プロジェクトアドベンチャージャパン（PAJ）と、宮城アドベンチャープログラム（MAP）の講師と企画指導専門職とで、事業3ヶ月前に事前打合せを行い、本事業のねらいや方向性を明確にしながら協力して事業プログラムを組み立てることで、体験学習の手法や考え方をよりよい形で事業参加者に学んで提供することができた。
- ・花山自然の家で所有しているエレメントについて、参加者に紹介することができた。
- ・本事業の演習で、エレメントを使って体験させる中で、体験学習サイクルが自然体験学習の場だけでなく、普段の学習活動に活かせることを提案できた。
- ・2日間にわたって数多くのアクティビティの体験を通して体験者から指導者の立場へ視点を変えることができた。2日間のテーマとしてあげた「指導者として、花山自然の家のエレメントを使って体験学習を企画、運営する」について学び、参加者一人一人にこれからの目標を考えさせることができた。
- ・今回は、新規の参加者が多かったことが特徴であった。また、大学生の参加も非常に多く、様々な分野の方が幅広く興味をもって参加いただける事業となってきた。
- ・本事業の参加者に書いていただいた記述式のアンケートの内容は、非常に好評だった。アンケートの内容は以下の通りである。

<東北地区学校教育に活かす体験学習指導者講習会事業をふりかえって>

(1) 今回の講習で学んだこと気づいたこと

- ・体験（感）しないと分からないことが多いなと思いました。理論や座学だけでは気づけない、感じないことが多くありました。そして、人と人とのふれあい、コミュニケーション、伝え合うことは本当に大事だと改めて感じました。
- ・一人ひとりへの支援、声かけ、そして心配り気配りが必要なことに、改めて気づかせていただきました。ありがとうございました。
- ・一人で抱え込まず、分担、役割によって完成、成功が達成される。個々人のもっている能力を引き出すことによって達成されることが多くなる発見がありました。
- ・グループ、全体での活動を通して、成功したときの達成感はとても大きいと感じた。と同時に、グループワークで一つの考えを決めるときに、どのような方法で決めるのか、少数派の人達の考えをどう次の活動に活かしていくのかが難しいと感じた。
- ・人間関係を作っていく中で、自分は周りが見えなくなるくらい熱中してしまうことがあると気がつきました。非日常の集団だから、いつもの集団だから気がつけることを日常的に感じて学びに転化させていきたいと思います。
- ・様々なアクティビティの中で、人間関係作りを深めていくためには、「待つ」「つみかさねる」ことが大切であることがわかった。
- ・体験から気づかされることで学びにつなげること。学校では気づかせる時間がない。意識的に作っていきたい。
- ・MAP研修に参加したことはあったが、より深く体験し、指導者側の学習を進めることができるととても良かった。何よりファシリテーターとしての見本を見せていただいたのが、とても自分の中で大きかった。また、最後の講義の中で、疑問点がいくつか解消されてスッキリしました。

(2) 今回の講習を実社会（職場、学校、地域、家庭）でどのように活かすか

- ・学級の子どもの横のつながりを強くし、自分達のクラスに誇りをもてる、一人ひとりの居場所がある学級作りをしていきたい。また、「チャレンジバイチョイス」の考え方を学びました。選択肢を与え、多数決で決めてしまうことが多いので、時間はかかるかもしれないが、子どもに任せる場面もつくっていきたい。
- ・学習発表後に、子どもたちは行事がない時期が続くので、学級や自分を見直す実践を行って、学年のまとめへとつなげていきたい。
- ・地域の自主運営の健康目的のサークル活動の中で、集団の力を高めるために使っていきたい。
- ・新規地域おこしの企画や教育ボランティア等で、このような経験を子どもたちと共有できるようにしたい。
- ・学級、学年、PTAなどの人間関係の育成、個々の成長につなげられるよう実践したい。
- ・教育現場で、子ども用に変化を加えながら行っていきたい。集団で育っていくことが、個々の成長につながっていくと思う。
- ・学級づくりや授業、集団活動のあらゆる場面で、状況に合わせて活かしていきたい。
- ・学校の学級づくりや先生たち同士の交流などでやってみたいと思った。また、大学で学生が集まる機会があったら、今回の活動を活かしていきたい。
- ・学校の研修会で、企画をするときに参加者の立場に立ち、どう感じるかを考えながら行えるよういかしていきたい。

(3) 感想、フリーコメント

- ・ 励まし、アイデア、確認など目的に向かう言葉の良さをとても実感した。またそれを聞かせあう（聞きあう）環境の大切さを学ぶことができた。
- ・ 人が挑戦する姿から、勇気がもらえると気づきました。
- ・ MAPについて学ぶ機会であると同時に、自分自身と向き合う機会でもありました。
- ・ 学生を参加させていただき、どの学生もとても良い刺激を受けていました。学生がそれぞれの場面で活用できるように、支援していきたいと思います。
- ・ 久しぶりに若い人達に混じっての活動で、思いやりの高さにおどろいた。
- ・ 答えが一つだけではなくて、いろんな答えがあることは、とても良いことだと思っただし、視野の広がりも感じる事ができた。いろんな人の言葉にふれることができ、わくわくしました。
- ・ 体を使って体験することの大切さを改めて実感できた。近年室内で遊ぶ子どもたちが多いが、外で遊び、学べるものを大人が伝え、楽しさを共有することが、健康だけでなく、心の豊かな成長に必要であると感じた。

【課題】

- ・ 11月開催は学習発表会や文化祭、学校公開等があり、学校関係の参加が鈍かった。
- ・ 本事業は6年目ということで、来年度はリニューアルを図る必要がある。(NEAL事業を視野に入れ、ボランティアスクールと体験学習講習を組み合わせる等模索していきたい。)



(最後に) 事業を支えてくださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。
来年度もぜひご参加ください。ありがとうございました。